

特集 未来を守る 災害への備え



これらの写真は、昨年10月に矢板市を襲った令和元年東日本台風による市内の被害状況の写真です。今年に入ってから7月上旬には九州北部に大雨特別警報が出されるなど、人命や生活に深刻な被害を与えています。

今号では、これからの台風や集中豪雨が起こりやすいシーズンに向け、家庭でできる日頃の備えや適切な避難行動についてご紹介します。

いざという時に備え、適切な行動をとれるようにすることで、未来の自分や家族を守りましょう。

目頃からの備え

危険箇所や避難場所の確認はできていますか？

7月に配布された防災ハザードマップは、いつ起こるかも知れないさまざまな災害による被害を最小限にとどめるため、土砂災害危険箇所や最大浸水想定区域、避難場所などの情報が記載された地図です。万が一に備えて、ハザードマップを参考に以下の点を家族で話し合っておきましょう。

- ・居住地区周辺の浸水や土砂災害危険箇所
- ・大雨による被害が発生しそうな場所
- ・避難所、避難の経路
- ・家族との連絡方法



災害に備えて備蓄はしていますか？

災害が発生した時に、自宅での避難生活に備える食料品や生活必需品を備蓄する量の目安は、最低でも3日間分、避難生活が長期化することも見越して1週間分以上が望ましいと言われています。

しかし、備蓄の必要性を感じていても、実際に食料を備蓄しておくことは、なかなか難しいものです。また、備蓄していても使用期限切れでは意味がありません。それらの解決策として普段から少し多めに食材、加工品を買っておき、使用したら買い足して、一定量を備蓄する「ローリングストック」を活用しましょう。備蓄品の消費と購入を繰り返すことで、鮮度を保ちながら災害に備えることができます。また、備蓄品は長期間置いておけるものと期限のあるものに分けて準備しておくとう便利です。



ー 長期間置いておける備蓄品 ー

- ・水を溜めておくもの (給水タンク、給水袋)
- ・調理器具 (カセットコンロ、カセットボンベ)
- ・衛生状態を保つもの (簡易トイレ、トイレトーパー、マスク)
- ・情報を確認するもの (モバイルバッテリー、ラジオ)
- ・そのほか災害時に役立つもの (ラップ・アルミホイル、懐中電灯、軍手) など

ー 消費・使用期限がある備蓄品 ー

- ・食料品 (主食やおかず、栄養を補充するもの)
- ・薬/救急用品 (常備薬、市販薬)
- ・衛生状態を保つもの (消毒液、ウエットティッシュ)
- ・日用品 (乾電池、ライター) など

防災情報入手ツール

自分で適切な判断ができるよう、防災・気象情報は積極的に収集するようにしましょう。

●テレビ

テレビのデータ放送を通じて気象情報や避難勧告などを知ることができます。

- ①リモコンのdボタンを押す
- ②「防災・生活情報」を選択



●市ホームページ

災害への備えや避難時の注意点などの防災情報を掲載しています。避難情報が発令された時は、トップページでお知らせします。



●県防災ポータルサイト

天気予報やレーダー観測に基づく降水強度分布、土砂災害警戒判定メッシュ情報など、自主避難などを判断するための情報がリアルタイムで入手できます。



適切な避難行動

避難のタイミングを知る

大雨による災害を防ぐため、昨年度から市や気象庁などから発表される水害や土砂災害の「避難情報」と「防災気象情報」をもとに、住民がとるべき行動を直感的に理解しやすくした5段階の「警戒レベル」が用いられています。警戒レベルを理解し、最善の行動をとれるよう備えましょう。

非常事態!

危険度 低

警戒レベル	取るべき行動	気象情報など ※気象庁が発表	避難情報など ※市町村が発令
レベル5	命を守る最善の行動	大雨特別警報	災害発生情報
レベル4	全員避難	土砂災害警戒情報	避難勧告・避難指示(緊急)
レベル3	高齢者・障がい者・乳幼児などその支援者は避難開始	大雨警報 洪水警報	避難準備・高齢者等避難開始
レベル2	避難行動を確認	大雨注意報 洪水注意報	
レベル1	災害の心がまえを高める	早期注意情報	

避難行動の心得

●非常持ち出し品の準備

いざ避難が必要になった時にすぐに持ち出せるよう家族構成に合わせて、必要最小限の荷物をまとめておきましょう。また、非常時でも被害を受けにくく取り出しやすい場所に保管しましょう。



●日没前に避難

夜暗くなってからの避難は危険です。暗いため周りが見えないだけでなく、大雨で音も聞こえにくいため、避難経路上にひそむ危険に気づきにくくなります。安全に避難できる状況のうちに、自らの判断で早めに避難することも重要です。

●車での避難は危険

車が水に浸かるとエンジンが止まってしまう動けなくなったり、水圧で扉が開かなくなったりして大変危険です。車での避難は特別の場合を除いて控えましょう。

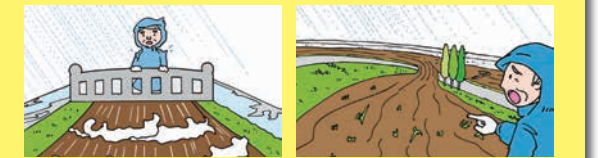


●近所との協力を

避難をするときは近所に呼びかけ、高齢者や子どもの避難に協力しましょう。避難するときは動きやすい服装や靴で、2人以上の複数で行動することを心がけましょう。



川や田畑の様子を見に行くのは絶対にやめましょう!



感染症対策を意識した避難行動を

新型コロナウイルス感染症の収束が見込めない現在、災害時に避難をする場合には、各自でしっかりと感染症対策を行うことが大切です。

避難先は市で指定している避難所だけではありません。ハザードマップなどを確認し、今いる場所よりも安全と思われる親類・知人宅に避難することも有効です。また、避難所では多くの人が集まるため、密集状態が発生し、感染症拡大の恐れがあります。感染防止のため、避難場所の検討や災害時でも感染症対策をしっかり行える準備をするなど、万が一の場合に備えましょう。

災害時でも新しい生活様式を心がけましょう

- 健康状態の確認
- マスク着用・手指の消毒
- 咳エチケットの徹底
- 3密の回避
- ソーシャルディスタンスの確保
- 各自でのマスク・体温計・消毒液の準備